

信心を頂いて救われるのか救われて信心となるか

- 私はいくら聞いてもなんだかぼんやりしたようで、はつきりいたしませぬ。
- △ 何がはつきりしませぬか。
- どうも救つてくださることがはつきりいたしませぬ。私の心はただぼんやりしています。
- △ 平素、つねにお寺でお説教は聞いていますか。
- はい、つねに聞いていますが、どうも疑いが晴れませぬ。
- △ では何もかもよく知っていないさるでしょう。それにまだわからないのですか。いったいあなたを救うのはだれですか。
- それは阿弥陀如来様であります。
- △ ではなぜあなたは救つてもらう必要があるのですか。
- それは私の罪悪深重の凡夫ですから。
- △ それで阿弥陀如来様はほんとにいられるのですか。また、あなたは地獄に墮ちるほどの悪人なのですか。
- さようでございます。私は地獄一定の悪人であります。如来様はもちろんほんとうにいられます。それはどちらも疑いはいたしませぬが、どうも、おちつきませぬ。
- △ それではいったい何が知りたいのです。どうおちつきたいのです。
- このはつきりしない心をはつきりしたいのです。
- △ はつきりしてどうします。そのはつきりしたあなたの心で往生しようというのですか。それではあなたは自力で往生しようと言うのですね。
- そうではありませぬ。自力でまいれぬことはよく知っています。ほんとの信心いただきたいらはつきりするだろうと存じます。
- △ そんなことは末の問題です。はつきりするのせんのと、それよりも急な問題がありはしませぬか。
- それは、ほんとの信心いただくより忙しい急なことはありません。
- △ そんなことばかり考えていたらなおさら信心にはなりません。いったい信心とは何のことですか。
- 如来様のお慈悲を誠に信じた心です。
- △ それにちがいありませぬ。それはどうしておこりますか。
- 如来様のお慈悲を聞いたからおこります。
- △ そうです。もと信心とは真実の心であります。「信心とはまことの心とよめるなり。まことの心とよむ上は凡夫の迷心にあらず」とあります。仏心を大信心ということです。その仏の大信心がそのまま私どものものとなるのです。
- それがどうしても私のものとなりませぬ。どうしたらいいのでしょうか。

- △ 聞き方が足りないのです。あなたは、私は地獄一定の悪人だと言いますが、それはほんとうですか。
- それはほんとうであります。恥ずかしい大悪人であります。
- △ それがどうしたら極楽に行けるのですか。
- 信心頂いたら参らしてもらうことができますと聞いております。
- △ それで、あなたは信心をいただきたいのですね。
- そうであります。
- △ では如来様から信心いただいたら、救ってくださいるのですか。
- そう思うております。
- △ それがちがいます。信心をいただくのと、救われるのとは一時であります。信心も何もないあなたが、無条件で大悲の本願力に救われるのです。救われた時の私どもの自然におこる思念を信心というのです。
- それでは、信心をいただいたら参らせてもらえないのではありませんか。
- △ それはそうです。けれども、信心は条件ではないのです。肝要なのです。せつばつまつた、どちらにも動きのとれない私の心をそのまま救われたところが信心です。
- そうですか。無条件で救われた時を、信心いただいたというのですか。
- △ そうです。信心いただいたらそれから救ってくださいるのではないのです。如来様のお慈悲は信じようとする力のはからいをしてできるのではないのです。はつきりしてとか、よろこんでとか、いろいろなはからいがつきはてて、まつたく動きのとれない私が、如来様のお慈悲を信じさせていただいた時、そのまま救われるのです。一度信心をいただいて、それを如来様に出して、それを条件に救ってくださいるではありません。
- それでははつきりしない心、疑いのはれぬ心がそのまま救われるのですか。
- △ はれぬ心、暗い心、疑いのある心の中に、晴れたお慈悲、はつきりした大悲、疑いのない勅命を聞くのです。そうしてお慈悲に闇が晴れるのです。
- どうもはつきりいたしませぬ。
- △ 目のつけ所がちがいます。仏の慈悲はあなたがなければならぬのです。あなたの三毒の煩惱が根本で、それを救うために生まれた本願です。あなたをはなれてはなし本願だということがよくよく知れた時、本願の手強さは、そのままあなたの手強さです。
- それではその本願を力にさせていただくのですか。
- △ あなたからしつかり何かものを握る心にかたまるのではないのです。
- どうしましょう。
- △ 手をはなしてごらん下さい。何も握らずに。
- それではおちます。
- △ 大願業力があります。あなたをおとすかおとさぬかは弥陀のお仕事です。弥陀の仕事の手伝いはおやめ下さい。手をはなして安心した心地がたのんだ心です。何か握って安心するのではないのです。大手ひろげて安心のできるところが、お慈悲です。

- ではこの地獄ゆきの悪人のままが。
- △ そうです、地獄ゆきの悪人のままが、廣大無辺の仏心に救われます。
- 南無阿弥陀仏、南無阿弥陀仏。
- △ その南無阿弥陀仏こそ、如来の勅命があなたを通して呼び出てくださいるのです。あなたの念仏はそのまま如来の勅命なのです。
- ありがとうございます。なんといいお慈悲でしょうか。